



# クリスマスコンサート新聞



今回は、事務部&薬剤部合同の、ハンドベル練習におじゃましました。曲目は『世界に一つだけの花』と『アメージンググレース』です。



勝尾さんなしでは、ハンドベルは成り立たないという声も聞かれた

仕事が一と段落した午後6時。2F内視鏡センターの一室は、ハンドベルの練習場へと様変わりします。そこは、規則的なメトロノームの音と、優しいベルの音色が入り混じる不思議な空間でした。10月中旬からコツコツと積み重ねる練習は、延べ約30時間。それらすべてを、当日の10分間にかけるのです。



本当はこうやって使うんです

毎年リーダーを務める勝尾さんによると、一番苦労するのは曲選定とのこと。ハンドベルの楽譜は、簡単な曲が多く、年々レベルアップしてきた自分たちの演奏に見合う曲が、なかなか見つからないためだとか。本当にすごいベル隊です。それでも13人のメンバーをまとめて上げていくのは大変ですが、一番大切なのは、テンションをみんなで上げていくことと、いかに「合わせようとする心」を持てるか、という2点だそうです。日頃からチームワークには定評のあるみんな。その得意分野を活かしているからこそ、毎年素晴らしい演奏が出来るのだと、今回訪ねてみて、改めて実感しました。練習中に和音が合った瞬間が、この上ない心地よさだと、

勝尾さんは言います。また、当日の演奏後は、患者様やスタッフからの「とてもよかったよ」という一言が、何ともいえない温かい気持ちと充実感を呼ぶのだそうです。今年も妖精たちの清らかな音色は、会場中を幸せいっぱいしてくれることでしょう!! 本当に楽しみです。



私たちピンクの妖精です♪ココロで奏でま〜す。



真剣な中にも笑顔 (丹さん・市山さん)



川越胃腸病院 クリスマスコンサート実行委員会監修 編集YOKOTA



もうベテラン!? (小川さん)

パートはくじびきで決めます (五十嵐さん・榎谷さん 高橋さん)



音のパートが決まっているハンドベルは、ひとりでも欠けると難しいので、なんとか時間を見つけて集中して練習をしています。この取材の後も、再び各部署に分かれて仕事をしていました。お疲れ様でした。



ハンドベル隊の練習に潜入!



クリスマスコンサートまで

あと

42

日